

あわくら 歴史街道

昭和の寺子屋で学ぶ 鉄山の子供達

元禄12年頃より繁栄を極めた若杉のタタラ鉄山も、明治30年頃を境に閉山となっていますが、大正年間から昭和の初期まで山を離れることなく、十軒程の家族が山仕事で生計をたてていました。時代の流れと共に山働きのみでは生活が成り立たず、昭和11年とうとう残る二軒の人達も、住馴れた若杉を後にして下山して行きました。

その後入山したのが田口武良さん一家で、昭和12年2月25日大阪毎日新聞社(津山発)の記事が、大きく報道されていましたのであらすじを紹介します。『中国山脈に昭和の寺子屋』雪の美作鉄山に訪うの見出し。鉄山で暮らす田口武良さん(36)一家は、12才の長男以下7人の子供達が寺子屋の生徒、この一家の子供達は毎朝起きると、お父さんの号令で体操、終わって食事、それから田口さんが先生となって勉強を始めます。時代に遅れてはということで、教科書は勿論のこと、その頃毎日新聞発行の小学生新聞を取寄せ教材としていました。

海拔1,000m因美国境中国山脈の中に取残された部落で、村役場へ1.6km、小学校へは1.4kmという別天地、昔は鉄鉱山で殷盛を極め、又、赤穂義士外伝で天野屋利兵衛も此処の鉄で、義士討入の武器を作ったと伝えられています。廃鉱後は次第にさびれ昨年までは五家族が1人減り2人減りこの冬からは田口さん一家のみとなってしまいました。

外は1mの雪、いろりを囲み、恵まれない地理的環境にもめげず田口さん一家の寺子屋教育は続いています。この苦勞は想像以上のものであったろうと、毎日新聞記者は書き記しています。当時は国際的にも不穏の続く中、7月には日支事變の勃発、新聞、ラジオの普及度も低く情報の少ない時代、毎日小学生新聞も大茅部落へ出て某家の古新聞を貰い受け教材とする等、心遣いの程がうかがえると共に父親の苦勞、この地で勉強に、山中での遊び、山仕事の手伝い、弟妹の小守等々にいそしんだ子供達も、鉄山での思い出を胸に、今は良きお爺さん、お婆さんになって幸福な日々を送っておられることと、想像をたくましくしている次第です。

中国山脈に

昭和の寺子屋

師匠は父親、生徒は愛児七人
こどもも大人氣、大茅小學生新聞

雪の美作・鐵山に訪ふ

▲昭和12年2月25日付け
新聞記事の見出し

人の動き 平成18年2月1日現在

- 人口 1,711人(+9) ●1月中の移動
- 男 821人(+4) 出生 1人 死亡 1人
- 女 890人(+5) 転入10人 転出 1人
- 世帯数 549戸(+3)

お誕生おめでとう

- | | | | | | |
|-----|-----------|-------|----------|-----------|------------|
| みずき | 金田 瑞騎 ちゃん | 1月30日 | 生まれ(別府) | お父さん 純一さん | お母さん 奈々さん |
| みさ | 熊橋 未紗 ちゃん | 1月31日 | 生まれ(別府) | お父さん 繁樹さん | お母さん しのぶさん |
| なるみ | 萩原 愛海 ちゃん | 2月19日 | 生まれ(影石) | お父さん 勇一さん | お母さん あかねさん |
| めい | 小松 芽生 ちゃん | 2月22日 | 生まれ(中土居) | お父さん 和正さん | お母さん 美由紀さん |

お悔やみ申し上げます

- | | | |
|---------------|-------|------|
| 森本 武典 さん(影石) | 1月31日 | 71歳 |
| 延東 清子 さん(猪之部) | 2月23日 | 101歳 |
| 太田きみ江 さん(坂根) | 2月26日 | 84歳 |
| 政久治三郎 さん(猪之部) | 2月28日 | 89歳 |

善意の窓 (村社会福祉協議会から)

平成18年1月20日~18年2月19日

お大事にしてください

- | | | |
|-------------|----|------|
| 坂根 山本 禮子 様 | 本人 | 退院内祝 |
| 塩谷 井上 和昭 様 | 本人 | 退院内祝 |
| 大茅 金田源之助 様 | 本人 | 退院内祝 |
| 中土居 河野 妙子 様 | 本人 | 退院内祝 |
| 別府 國里 賀澄 様 | 本人 | 退院内祝 |
| 塩谷 石原とみ江 様 | 本人 | 退院内祝 |

ご冥福をお祈りします

- 塩谷 野田 和江 様 亡夫 清一様 香典返し

今月の村税

国民健康保険税(第10期)

納期限：3月31日

納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。また、口座振替の場合は残高確認など、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：西栗倉村役場総務企画課